様式1 # 令和5年度　山梨県立あけぼの支援学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	

山梨県立あけぼの支援学校校長　　相山　洋幸

本年度の重点目標	
	1　子どもの可能性を発見して支援する教育の推進
	2　安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育実践
	3　共に豊かな人生を共有する教育の推進
	4　教職員のライフ・ワークバランスやキャリア形成を意識した職場づくり

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（1月29日現在）			実施日　（令和6年2月8日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	子どもの可能性を発見して支援する教育の推進への取組	ICFを活用した学習活動と、その資質能力を獲得させるための教育課程の検討	個別の教育支援計画の検証	・個々の実態把握を、グループや学部で様々な機会を設けて情報共有することができた。それにより、必要な支援や指導の工夫を随時検討しながら確認し実践することができた。 ・PT・OT・心理士等の専門家の活用やリハビリ見学を積極的に行い、指導に生かすことができた。	B	・学習目標が達成しやすい集団や学習形態となるよう、教育課程やグループの編成については丁寧に検討する。 ・個別の指導計画ミーティングを確認の場とし、児童生徒の中心的な課題を意識しながら学習指導や学校生活全般での支援を実践する。	3	・自立活動に比重を置いた教育課程から、知的障害教科を中心とした教育課程へと移行する際には、児童生徒の実態をよく吟味し、慎重に検討することが必要だと思う。肢体不自由があるので、教科指導を行う際には、自立活動としっかり関連づけて考えていくようにしていただきたい。 ・児童生徒一人一人に合わせた授業・指導ができていて、子どもの可能性を引き出すことのできる教育環境だと思う。 ・ICTを活用した学習活動については、視線入力の導入、iPadやVOCAの活用など、児童生徒の実態や学習状況に応じた活用ができていると思う。ICT機器は活用することが目的ではなく、児童生徒の学びを支援することが目的であることをしっかりと押さえて指導にあたっていただきたい。 ・今後の生活等でiPadなどは使用頻度が上がると思われる。児童生徒の将来に向けて様々な工夫をするとともに外部とのリモート交流もできると良い。
		新学習指導要領に基づいた児童生徒に育成すべき資質能力育成のための教科指導の検討	個別の教育支援計画の検証	・肢体不自由特別支援学校の重複障害児童生徒の教育課程について、学習指導要領を確認しながら、生活科、理科、社会科の指導についてグループごとに指導内容や方法を検討することができた。 ・教科指導を中心とした相互授業参観ウィークを設定し、他学部・他クラスの授業を参観し意見交換する場を設けることができた。		・本校の教育課程の課題であった内容の研究ができた。生活科、理科、社会科は特に検討が難しい教科であったので、今後その他の教科を検討していくためにも、課題意識を持って取り組めた。 ・相互授業参観は来年度も継続し、教員の同士の学びの場とする。		
		個々の児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの実践	一人1実践の取組 専門家の活用状況	・直接的な関わりが難しいセンター生や訪問生、他校との交流等でもオンラインでつながることによってお互いを意識できるようになった。（訪問等の遠隔教育での使用は80回程度） ・児童生徒の実態に合ったICT機器を使用した授業を行うことができた。（iPadの活用や視線入力等）		・iPadの活用方法については、引き続き児童生徒の個々のニーズに応じて、担任と相談しながら新規のアプリケーション導入について検討していく。 ・遠隔教育、視線入力についても、現在行っている教育活動がより深められるようにする。		
		キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進（保護者との情報共有・卒業を見据えた系統的な進路指導）	学校評価アンケートの検証 保護者との連携状況	・様々な機会にキャリアパスポートの作成・活用を呼びかけた。 ・進路だよりの発行や福祉事業所見学の実施等を行った。		・キャリアパスポートの活用の検証を行い、より使いやすいものとなるよう検討していく。 ・学校のホームページやブログを利用し、情報を積極的に発信・更新していく。		
2	安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育実践の取組	事故防止に向けたインシデント・アクシデントの報告・分析と改善の取組	ヒヤリハット記録の蓄積 教職員の意識化の検証	・生指環防と連携して、安全点検の折に環境面でのインシデントの事例を出してもらうように呼びかけたことで、レベル0の事例を集めることができた。 ・提出された事例は、分掌内で分析し、改善策を職員会議で提示した。至急の案件は、朝礼のリモート画面に載せ、注意を促した。	A	・提出された事例については、具体的な改善策を提案することができた。 ・今年度プール学習を行う前に行った緊急時シミュレーションは、事故防止に向け効果的であった。来年度も危険予知訓練のような形で同様に行えるようにする。	4	・事故を未然に防ぐためには、ヒヤリハット記録を収集・蓄積し、原因を分析して先生方が共有することが欠かせない。児童生徒の命に直結することでもあり、教員が常に意識して行動できるような取り組みが必要であるが、それができているので、今後も継続していただきたい。KYT（危険予知訓練）の導入を検討してはいかがだろうか。 ・摂食研修なども先生方が多く参加しているので、スキルアップされているように思う。 ・非常時の電源の確保がしっかりできていることは評価できる。医療的ケアが必要な児童生徒は、命に直結するので必要である。 ・あけぼの医療福祉センターと密に連携しており、災害時に通学の児童生徒を優先して受け入れてもらえる体制を整えたことは、医療が必要な児童生徒が安心して避難できる場所の確保となり、素晴らしい取り組みだと思う。 ・児童生徒のために、あけぼの医療福祉センターと緊急時対応検討会を実施し、災害時の受け入れを確認したことは良かった。引き続き、年度の切り替えごとに災害時のための連携会議を実施して児童生徒が安全に学校生活が送れるような環境を提供してほしい。
		食形態や摂食指導方法の研修の充実による学校全体でのスキルの維持充実と安全な給食指導の実施	外部専門家の活用状況 給食委員会での検証 摂食指導カードの記載内容状況の検証	・摂食実技相談における医師からの指導助言や、各種研修会や報告会を実施することで、学校全体で摂食指導の技術向上を図り、安全な給食指導に努めることができた。		・担任から出た児童生徒の摂食の課題などを分掌で検討し、摂食指導医やセンターの栄養給食科と連携を図りながら、より良い給食指導につなげることができた。 ・進路指導部と連携し、実習先の食事や卒業後を見据えた摂食指導について発信していく。		
		あけぼの医療福祉センターとのチームアプローチによる指導の充実（防災連携も含む）	学校・センター連絡会の実施と検証	・年度初めに「緊急時対応検討会」をもち、緊急時に対応が難しいと思われる児童生徒についてセンター医師と共通確認することができた。 ・感染症対策等、センター医師と相談しながら随時対策を行うことができた。 ・災害時におけるセンターへの通学生の受け入れについて連携会議を実施し、受け入れの確認を行うことができた。		・児童生徒の安全のために「緊急時対応検討会」は来年度も継続し、通学生の実態をセンター医師にも知っていただく。 ・引き続き年度の切り替えごとに災害時のための連携会議を開き、災害時におけるセンターとの連携について情報を更新していく。		
3	共に豊かな人生を共有する教育の推進への取組	本校の専門性を地域に提供し、肢体不自由の特別支援学校の特色を生かした地域支援活動の推進	各種アンケートの検証	・年2回の肢体不自由専門部連携会議では、小中学校の支援学級担任のニーズに応じた研修の機会を提供することができた。 ・圏内の教育委員会や福祉と連携を図り、子どもに係る情報共有がスムーズに行えた。	A	・就学期の保護者のニーズを的確に捉え、悩みや困りごとを解決できるよう、次年度の早い時期にホームページに必要な情報を掲載する。 ・保護者から就学・転学の相談申込を受けたケースには、市町村教育委員会と連携するよう心掛ける。	4	・センター的機能による通学区域の小中学校への支援・就学相談が、ニーズに応じて実施することができている。 ・インクルーシブ教育の推進により、通常学級・特別支援学級に在籍する子どもの数も増加していることから、センター的機能はますます重要になってくるため、ニーズに応じた支援ができるようブラッシュアップしていってほしい。 ・ホームページ・ブログでの情報発信は、とても良いことだと思う。今後も外部に広く発信してほしい。 ・外部福祉機関との関わりを強化するために、福祉サービス事業者との意見交流などがあれば、互いにもっと実態を知れる機会になる。
		学校ホームページを充実させ、本校の特色および児童生徒の取組を情報発信	学校評価アンケートの検証	・保護者や外部の方に学校の様子を知っていただくために、学校行事や授業等、あらゆる場面の記事が掲載できるように、年度途中にブログ掲載の内容や回数の確認を行なった。		・各学部・分掌により、情報発信が難しいところも考慮しながら、ブログ記事をできるだけ載せられるように心掛け、学校からの情報発信を行う。		
4	教職員のライフ・ワークバランスやキャリア形成を意識した職場づくりへの取組	教職員の勤務時間や健康管理を意識した働き方の推進	各種アンケートの検証 教職員のストレスチェック結果の分析	・管理職による面談や校内の巡回による観察、出退勤調査の記録の確認等で、教職員の勤務の様子を観察した。必要に応じ相談や助言を行った。 ・ストレスチェックの実施や検診案内・健康情報を係から提供した。	A	・ストレスチェックや安全衛生委員会、各種アンケートの結果を踏まえ、個人や全体に必要な声掛けを行う。 ・掲示板を利用した情報発信は継続していく。	4	・児童生徒の指導を充実させるためには、教員間の情報共有が欠かせない。そのための打ち合わせの時間が必要になるが、働き方改革とのバランスが課題になってくる。どこに力を入れるのか、優先順位を明確にする必要がある。 ・教職員用の学校改善・点検シートを見ても高評価であることから、働きやすい職場であることがわかる。 ・オンライン会議等で効率化を図り、管理職による教職員への面談や校内巡回により、メンタル面のフォローを行うことで健康管理を意識した働き方ができていると思う。 ・研修への積極的な参加の促しや、他の先生への研修の共有など、全体のスキルアップにつながる活動の継続をお願いしたい。
		ICTを活用した公務の効率化の推進	学校評価アンケートの検証	・本校教職員対象のTeamsにICT支援・相談のチームを作った。それによりICT支援員への相談やICTの活用がスムーズに進められるようにした。 ・オンラインによる会議の実施、資料のペーパレス化に取り組んだ。		・職員からの質問にリアルタイムに答えてもらえるような環境作りをしているが、それを継続して周知することにより、活用を増やしていく。		
		教員一人ひとりのライフステージや課題を意識した主体的な研修の推進	自己観察書や面談時の確認	・本校の課題や教職員の資質向上に役立つ講師招聘研修会を夏季休業中を中心に複数回実施した。 ・1年を通して、様々な研修会や参考になる書籍の紹介を、教職員へのメールや掲示を行い周知した。		・自己観察書への記入、研修MyPageの活用により、研修意識が高まりつつある。今後も研修の紹介は継続し、面談時にも必要な指導助言を行いながら教職員の資質向上を進める。		

留意点　（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。